コミュニティ・スクール 太宰府市立太宰府西中学校 学校だより

樟　　蔭

平成２９年４月１２日（水）　Ｎｏ.１　文責 校長 岡（おか） 摂（とおる）

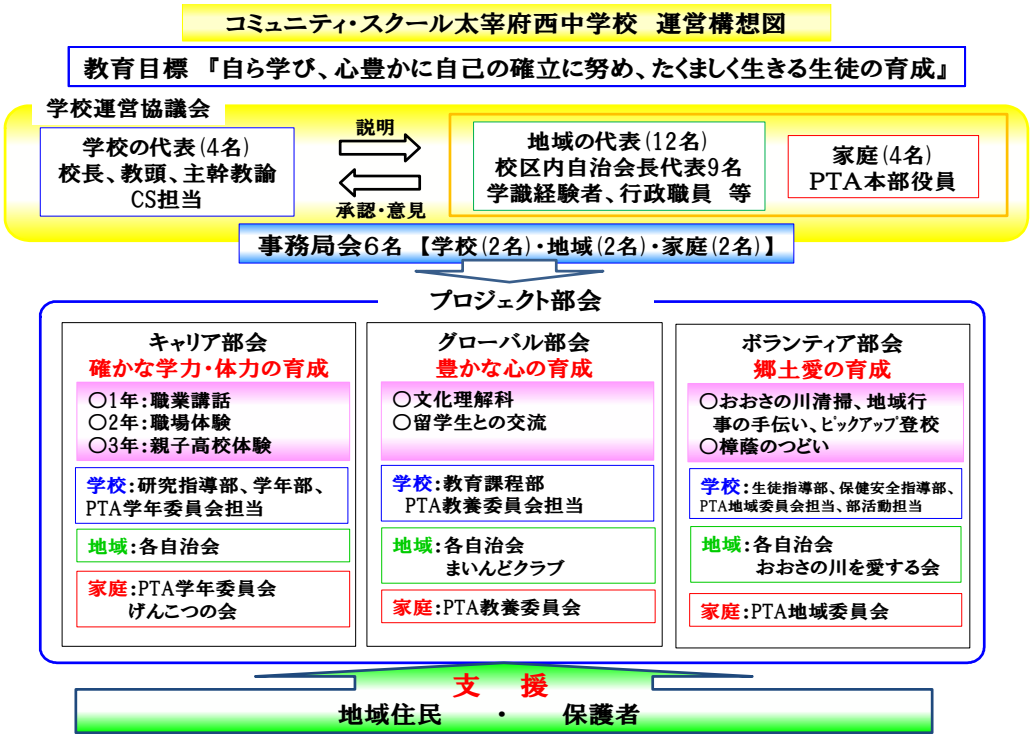
新年度のスタート、よろしくお願いします

「さすが！太宰府西中の生徒！」、４月６日赴任式での第一声としてこの言葉が出てきました。春休み明けの久しぶりの登校ですが、生徒たちの顔はよく上がっており、新学年に臨む意欲を感じました。また、４月１２日は第３３回入学式で、新入生１７１名を迎え、生徒総数５７５名で学校が動き始めました。通常学級１６クラス（３年生５クラス・２年生６クラス・１年生５クラス）、スマイル・そよかぜ学級２クラス（特別支援学級）でのスタートです。生徒も職員も新年度への期待で胸がいっぱいです。

私は、お隣の太宰府東中学校から赴任して参りました（太宰府市国分の住人です）。本校には何度も来ており、生徒たちの明るい表情や授業への積極性、ＰＴＡ活動のチームワーク等々、すばらしい学校であると思っています。本校のこれまでの良き伝統を引き継ぎ、微力ながら学校・地域の発展に向けて全力を尽くしたいと改めて決意を固めた次第です。よろしくお願いいたします。

なお本紙は、保護者・地域の皆様に向けて、学校・生徒の様子、学校の思いや考え方を中心にお伝えしたいと考えています。月行事や諸連絡等については、学年だよりや学級だよりでご確認ください。

☆「コミュニティ・スクール運営構想」と「学校の教育目標」



２１世紀は、「知識基盤社会」（knowledge-based society）の時代であると言われています。「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会」と定義されています。例えば、何かを調べるとき、辞書や百科事典などで調べることも大切ですが、インターネットを使えば便利に簡単に調べることができます。もしインターネットを知らなければ、知らないだけですでにスタートが遅れてしまうことになります。また次の段階では、その得られた情報は正しいのか有効なのかを自ら考え判断し、自分の次の行動に移していくことになります。つまり、「まず幅広い知識があること、そして、それをもとに柔軟に思考・判断することがますます重要になる時代」を迎えるということです。

また、「今後、１０年から２０年程度で、約４７％の仕事が自動化される可能性がある」（オックスフォード大学・オズボーン准教授）、「子どもたちの６５％は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」（ニューヨーク市立大学大学院センター・デビットソン教授）、人工知能やセンサー等の発達で、社会構造が劇的に変わるということです。アルバイトもなくなってしまうかもしれません!?　現代社会とは、ものすごい速さで変化しており、こういう時代に生きる子どもたちに必要な「２１世紀型能力」（国立教育施策研究所）として、「思考力を中核とし、それを支える基礎力と、使い方を方向づける実践力」の必要性が説かれています。

このような背景から学校では、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業研究や「特別の教科　道徳科」に備えた授業研究を行います。また、本校の伝統である、国際理解教育や文化理解科の学習も継続して進めます。平成２７年度から本格実施となったコミュニティ・スクールと合わせて、「学校」と「家庭・地域」が「車の両輪」となってリードし、子どもたちの健全育成や地域の活性化が図れますよう、ご支援・ご協力をよろしくお願いします。